

シリーズ

かほく
市の

文化財 No.46

遺跡 編 木津窯跡と木津焼（2）

No.45に引き続き、「木津窯」と「木津焼」について紹介します。

発掘調査によつて「木津窯」は、残存状況は悪かったものの、構造を推定することが可能でした。また出土遺物をみると、窯道具（窯で製品を焼く際に使う道具）、日常雑器と思われる素焼きの未成品の欠片や、窯壁の一部として使用されたと思われる二次被熱を受けた瓦片などを確認しました。これらの遺物は、耕作など後世の生活の影響を受けたため、現代の遺物と混ざるように出土し、およそ江戸時代末〜昭和30年代頃までの時期を示しています。そのため、出土遺物からは、これが木津焼と言いつても難しい出土状況でした。

他にも、松本佐太郎氏、元金沢桜丘高校郷土部顧問の高橋三郎氏などが木

津焼の製作者や木津窯の作業期間や場所などについて文献資料から研究し発表されています。それぞれ、その説に違いがありますが、およそ江戸時代末期〜明治初期の僅かな期間で木津焼が焼かれていたことが共通しています。

これまでの話から、木津窯や木津焼にはいまだ謎が多いということが分かるかと思えます。考古資料と文献資料から考えれば、江戸時代末期〜明治初期まで、木津窯で木津焼を焼いていたことは、確度の高い情報といえるでしょう。

皆さんも、ミステリアスな木津窯や木津焼について調べてみてはいかがでしょうか？



木津焼の徳利

木津地内の家に伝わっている木津焼の徳利。かほく市の歴史を語る上で貴重な文化財といえる。